

都市再生整備計画 事後評価シート

若狭和田地区

平成31年3月

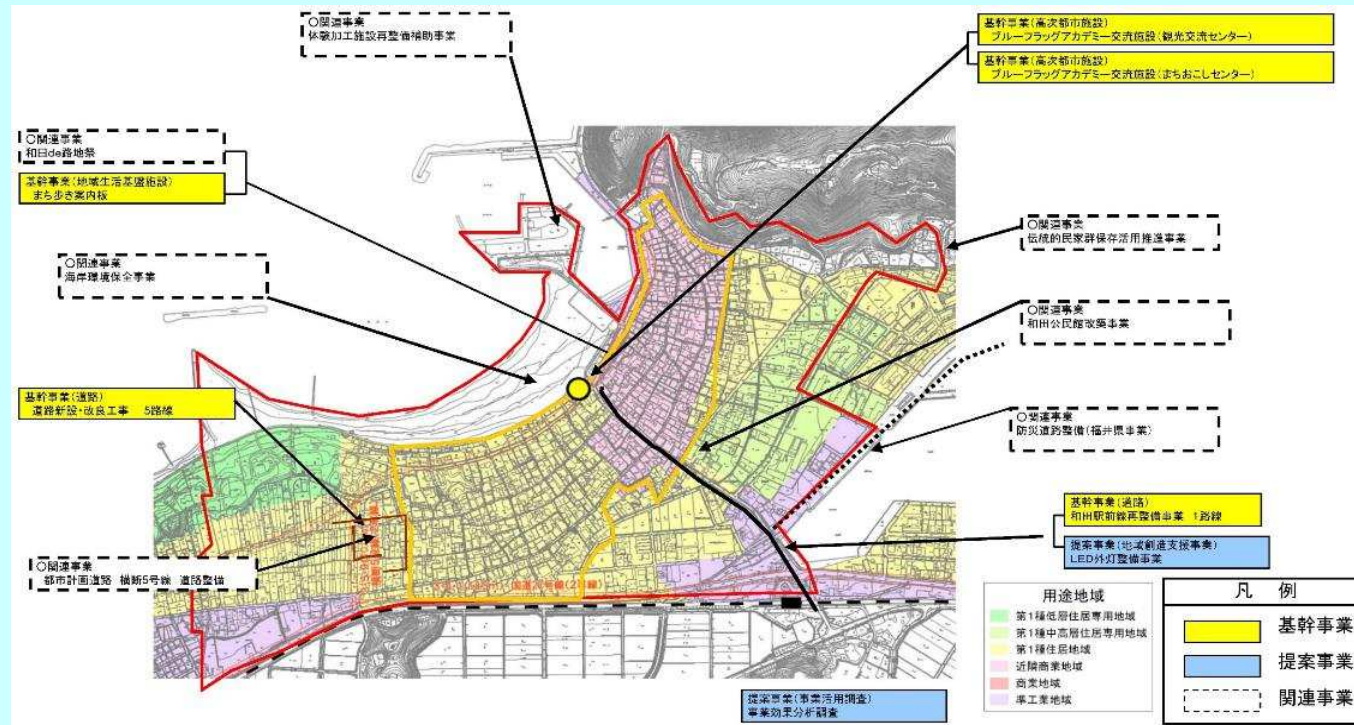
福井県高浜町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福井県	市町村名	高浜町	地区名	若狭和田地区			面積	74.7ha				
交付期間	平成26年度～平成30年度	事後評価実施時期	平成30年度	交付対象事業費	155.9百万円	国費率	0.4						
1)事業の実施状況	当初計画に 位置づけ、 実施した事業		事業名										
		基幹事業	道路[和田駅前線再整備、都市計画道路整備に伴う道路整備]、地域生活基盤施設[まち歩き案内板]										
		提案事業	地域創造支援事業[LED外灯整備事業]										
	当初計画 から 削除した 事業		事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
		基幹事業	下水道[都市計画道路整備に伴う下水道整備] 地域生活基盤施設[広場及び調整池整備、視点場(緑地)再整備]										
		提案事業	地域創造支援事業[都市計画道路整備に伴う換地補助事業、体験加工施設再 整備補助事業、交流体験施設整備事業] まちづくり活動推進事業[海岸環境保全事業]										
	新たに追加し た事業	基幹事業	高次都市施設〔(仮称)ブルーフラッグアカデミー交流施設〕										
提案事業		事業活用調査[事業効果分析調査]											
	交付期間 の変更	当 初	平成26年度～平成30年度	交付期間の変更による事業、 指標、数値目標への影響	なし								
		変 更	平成26年度～平成30年度										
2)都市再生整備計画 に記載した目標を 定量化する指標 の達成状況	指 標		単位	従前値	目標値		数 値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み				
	指標1	観光客入込み数	人/年	140,800	H24	163,300	H30		140,900	×	あり なし ●	観光客入込み数の増減は、本事業とは関係のない外的な要因による影響が大きかったと考えられるものの、新たな観光・交流拠点として期待していたブルーフラッグアカデミー交流施設が工事完成にまで至らなかったことが目標未達成の最も大きな要因と考えられる。 また、上記の主要事業が未完成であったために、その他事業が十分な効果を発揮できなかったと考えられる。	-
	指標2	計画地区の人口	人	1,681	H24	1,617	H30		1,636	○	あり なし	都市基盤整備をはじめとして未完成の事業が残されており、当初想定していた事業成果には至っていないものの、既に完成している事業によって、安心安全で住み良い居住環境が整いつつあることが、目標達成の要因と考えられる。 また、関連事業の(都)横断5号線は未完成であるが、同路線の整備を見越して宅地開発が進められたことも目標達成の要因と考えられる。	平成31年4月
3)その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況	指 標		単位	従前値	目標値		数 値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み				
	その他の 数値指標1	-	-	-	-			-			-	-	
4)定性的な効果 発現状況	・和田海水浴場に程近い空き家がゲストハウスとして活用されるなど、地域のまちづくり気運の高まりが見られる。												
5)実施過程の評価		実施内容			実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	-			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-				
	住民参加プロセス	-			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-				
	持続的なまちづくり 体制の構築	-			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-				

様式2-2 地区の概要

若狭和田地区（福井県高浜町）都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標 豊かな自然や歴史・文化・地域産業を活かしたまちづくり 目標1 快水浴場百選に選定された海水浴場の夏季観光及び夏季観光以外の交流人口の増加と賑わいの創出を図る。 目標2 都市基盤施設の整備・充実により、安心安全な住環境の創出により人口の流出を抑制する。	観光客入込み数	人/年	140,800	H24	163,300	H30	140,900	H30	
	計画地区の人口	人	1,681	H24	1,617	H30	1,636	H30	



まちの課題の変化	・交流人口の増加とにぎわいの創出に関して、まち歩き案内板や体験加工施設再整備補助事業などが完成・実施したことで、観光客が安全かつ快適に回遊・滞留するために必要な環境の一部が整った。一方で、新たな観光・交流拠点として期待されるブルーフラッグアカデミー交流施設や主要な観光道路である和田駅前線の早期整備を図り、交流人口の増加やにぎわい創出に向けて引き続き取り組む必要がある。また、空き家や空き民宿の増加によるまちの活力低下への対応、インバウンド需要の取り込みが新たな課題となっている。 ・人口流出の抑制に関して、LED外灯や防災道路(県事業)の整備によるまちなかの安全性の向上、和田公民館改築事業による地域コミュニティの醸成の場や機会の充実、伝統的民家群保存活用推進事業や海岸環境保全事業などによる地域の価値の向上が図られた。一方で、地域の主要な生活・防災道路である和田駅前線や横断5号線及び関連する道路、ブルーフラッグアカデミー交流施設の整備を早期に図り、住環境の安心安全性、防災性、利便性、魅力の向上により、人口の流出抑制に引き続き取り組む必要がある。また、立地適正化計画に基づく居住や都市機能の誘導・集約、空き家の発生予防・活用及び流通の促進・適正管理の推進・老朽空き家の解消が新たな課題となっている。	
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	○ブルーフラッグアカデミー交流施設や和田海浜広場の整備などによる賑わい・交流の拠点づくり ○町道臨港線(和田駅前線)や海沿いの景観を活かした歩行者・自転車空間の整備などによる回遊を促す環境づくり ○観光案内板(多言語型)の設置や空き家や空き民宿の活用、ブルーフラッグの環境保全、ブルーフラッグ周辺の拠点性を高める店舗等の誘致などによるインバウンドを含めた観光の振興 ○都市計画道路やその他生活・防災道路の整備、狭い道路の解消、管理カメラの設置、ソフトな防災対策などによる安心安全なまちづくり ○身近な公園や広場の整備などによる潤いのあるまちづくり ○子育て施設の整備(保育園、子育て世代包括支援センターなど)などによる子育て世代にやさしいまちづくり ○伝統的民家の保全および普及促進、景観計画の策定、景観条例の制定などによる景観まちづくり ○空家等対策計画に基づく各種対策の推進(予防・利活用・適正管理・老朽空き家の解消)	